

絵本『とどけ、みんなの思い ～放射能とふるさと～』 全国の先生方の感想

「いい絵本だなあというのが第一印象です。福島のことを見ようとしてもなかなか見えない現状があります。東日本大震災より4年が過ぎた今こそ必要とされる絵本、子どもたちに出会ってほしい絵本だと思いました。

絵がとても優しく、きれいなこと。子どもたちが好きな色遣い、地震や原発事故が起こる前の生き物たちの何気ない日常の姿が「ふるさとっていいなあ」「ふるさとってかけがえのないもの」というメッセージとなっています。そして、そのふるさとに住めなくなっている人や生き物がいるのだという現実が心に深く伝わってきます。その現実が、猫のミャーサの視点だけでなく、生きとし生けるものの多様な視点から考えさせられ、見えてくるような気がします。この多様な視点がいいんですね。

『自分で本当のことを見ぬく力をつけなくてはならないのよ』『耳をすましてごらんない』『こんなことが二度とあってはいけない！』という言葉が心に残り、自分ができることは何だろうと一人一人が考え、一歩ふみ出そうとする気持ちを引き出す力をもつ本だと思います。小学生にも、中学生にも、そして高校生にも出会わせたい本です

この絵本から受ける感動は、生きとし生けるものへの「リスペクト(敬意)」と「ねぎらい」こそが大事だという、精神科医の重村淳さんの言葉と重なります」

「震災を忘れてはいけない」と良く耳にするが、少しずつ忘れてしまっている自分がいた。“もう過去のことで、遠く離れた土地のことで”という考えがどこかにあり、現実の現在の東北地方のことを考えることもなかったように思う。しかし、先生の授業を聞かせていただき、まだまだ苦しんでおられる人々は沢山いるのだと改めて実感した。復興していると良く聞かすが、それは表面上のことであり、本当の復興は、まだまだほど遠い。だからこそ、こんな時に、私達が何ができるのかを再び考える良い機会になった」

「東日本大震災について、生徒達に実際に起こったこと、その後の生活、心情が伝わりました。生徒の感想からも、東北の復興に対する思いを願うものが多くみられました。今の生活を幸せなんだと振り返ることが出来た生徒もおり、深い学びが出来ました」

「胸が苦しくなりました。『自分の幸せは何だろう』『自分に何が出来るだろう』と考えさせられました」

「夢ら丘さんの本なら難しい放射能について伝えられると思いました。ふるさとに戻れず、今も苦しんでいる人がいる。自分達は何不自由なく生活しているが、同じ日本で辛い思いをしている人がいるということを児童たちに知ってほしい」

「2011年の7月末にチャンスがあり、石巻市にボランティアに行きました。3日間のボランティア。移動日を入れると5日になりました。内容は、小学校のプール監視(初日)、校庭の除草作業(中日)、最終日は雨のためバスで被災地を回ってもらいました。“見て伝えることがボランティアになるんですよ”と言われました。除草作業中通りかかった女性が“この世の終わりかと思った”と話して下さいました。

今回の先生の授業を参観させていただいて、ただただ、“すごい”って思っていました。伝えることの素晴らしさ。子ども達に分かりやすく、どうにかして想いを伝えたいという気持ちが伝わりました。

東北に行った後の感想は、“前進”でした。がれきの中にも一本のひまわりが咲いていました。止まってはいけない。前を向いて生きることの大切さを思い出させてもらいました」

「(孫たちに)、とどけ みんなの思い」を寝る前に読んで聞かせると、二人共、真剣な顔で聞いていました。…小1の〇〇は「放射能ってどこに書いてある？」と聞いてきました。本の中に『色もなければにおいもなく、まったく姿かたちが見えないんだ。』とあり、いろんな動物や生き物の目線で書かれていたので孫たちも感じとることができたようです。

やさしく分かりやすく正しいことを伝える絵本ができて本当に嬉しく思います。多くの人に知らせていきたいと思います。

絵もきれいで、いのちに触れる絵本で素敵だと思います。本当にありがとうございました」

「私は、若い頃、仕事で福島県に行ったことがあります。郡山市に4ヶ月、福島市に7ヶ月いました。その他、仙台市、塩釜市、山形県鶴岡市にも行きました。東北は、寒さが厳しいところですが、人の心はとても温かいです。夢ら丘さんの絵本を見た時に、お世話になった福島の人々を思い出しました。また、福島を含む東北の人々の心の強さも思い出しました。教職に就いての間もなくの頃で、島原で、普賢岳の噴火災害に遭った時、東北からも沢山の応援メッセージや支援物資をいただきました。これらのことを一つ一つ思い出しました。

生徒達は、まだ、私のような経験はないので、私とは違った受け止め方だったと思いますが、これからの人生に、自分たちも同じような経験をして、助けたり、助けられたりしながら生きていくことを感じたと思います。私も授業の中で話すのですが、「人は、その人にしかできない才能をもらっているから、出来る事をまず、やってみよう」と言って、どんな小さなことでも、まず、行動するように勧めています。心にじーんと来る授業を有難うございました」

「当時の衝撃が蘇りました。忘れてはいけない事なのに、時間が経つと、昔の事のように思えて、ダメですね。今なお、苦しんでおられる方が大勢いらっしゃることを、あの惨事を乗り越え頑張っておられる方がいらっしゃることを、私達は決して忘れてはいけないという事を、改めて思いました。絵本の読み聞かせは、胸にぐっときました。私達に出来る事はないのか、力になるにはどうしたら？と考えさせられた授業でした。有難うございました」

「忘れかけていた恐怖を思い出させ、改めて、地震の恐ろしさ、原発事故の悲惨さ、未だに近づくことも出来ない地区があること、避難生活を余儀なくされている人がいることを実感させることが出来て良かったです。行事とのつながりやニュースを取り上げ、生徒も身近に感じ、自分の事として考えることが出来ていました。本の読み聞かせも、感情がこもっていて、とても魅きつけられました」